

厚生労働科学研究費補助金
免疫アレルギー疾患政策研究事業
関節リウマチ診療ガイドラインの改訂による医療水準の向上に関する研究班
令和4年度 分担研究報告書

関節リウマチ診療ガイドライン改訂のためのシステマティックレビューに関する研究
研究分担者 矢嶋宣幸 昭和大学 医学部内科学講座リウマチ膠原病内科学部門 准教授

研究要旨 質の高いシステマティックレビューを遂行可能な人材育成を目的とし、実際のCQを用いて勉強会を行った。合計3回の勉強会をコクランジャパンの支援のもと実施した。実際のSR作業前に勉強会を行うことを繰り返すことにより、より効果的な勉強会を実施できた。今後も継続的な勉強環境の提供を図ることが重要である。

A. 研究目的

厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患政策研究事業関節リウマチ診療ガイドラインの改訂による医療水準の向上に関する研究班は、作成する診療ガイドラインのSystematic Review (SR)を実施するにあたり、質の高いSRを遂行可能な人材育成を目的として、実際のCQを用いたSR勉強会を行った。文献検索、Risk of Bias 評価、メタ解析の合計3回の勉強会をコクランジャパンの支援のもと以下のスケジュールで実施した。

B. 研究方法

以下の日程で、勉強会、および、SR作業を実施した。

年間予定

年・月	内容
2022年6月	募集締め切り
2022年7月	応募者に結果通知
2022年7月	Clinical Question 決定
2022年8月7日	第1回目 SR 勉強会 内容：SR・GL 作成総論、検索式作成、文献検索、データ抽出 Rayyan の使用法
2022年7-10月	第1回目の作業：文献検索・スクリーニング
2022年11月6日	第2回目 SR 勉強会 内容：第1回目の作業結果の提示・確認・Q&A、文献の批判的吟味 (Risk of bias の評価) RevMan の使用法 (2回)
2022年10月	第2回目の作業：ROB 評価・資

-2023年 1月	料作成
2023年2月 12日	第3回 SR 勉強会 内容：第2回目の作業結果の提示・確認・Q&A、メタ解析、Grade、E to D
2023年2-4月	第3回目の作業：RevMan を用いた資料作成

第1回目勉強会タイムスケジュール (2022年8月7日実施)

SR・GL 作成総論、検索式作成、文献検索、データ抽出 Rayyan の使用法

13:00-13:30 開会挨拶・自己紹介・SRに関するイントロダクションのQ&A

13:30-14:30 レビュークエスションの設定 演習 (ブレイクアウト2人組)

14:30-15:30 研究の検索 演習 (個別)

15:30-15:45 データ抽出・Risk of bias 評価・メタアナリシスの概要 Q&A

15:45-16:15 登録基準チェック (Rayyan) 演習 (ブレイクアウト2人組) : 渡辺

16:15-17:00 質疑応答、閉会挨拶

第2回目勉強会タイムスケジュール (2022年11月6日実施)

ROB2 (RCT) 、および観察研究のROB 評価の演習

13:00-13:05 開会挨拶・自己紹介

13:05-14:05 ROB1 演習 (渡辺)

14:05-14:30 データ抽出 TIPS 講義、演習なし（山路）
14:30-14:40 10分休憩
14:40-16:40 ROB2 演習（辻本）
16:40-16:55 個別 CQ 進捗報告・相談（全員）
16:55-17:00 閉会挨拶

第3回目勉強会タイムスケジュール（2023年2月12日開催）

メタ解析（revman）、GRADE、EtD

13:00-13:05 開会挨拶
13:05-13:15 会の流れ、今後の予定説明
13:15-14:15 RevMan 演習（渡辺）
14:15-14:30 休憩
14:30-15:45 GRADE 演習（辻本）
15:45-16:00 EtD 講義（渡辺）：1
16:00-16:50 個別 CQ 進捗報告・相談
16:55-17:00 閉会挨拶

（倫理面への配慮）

・特になし

C. 研究結果

3回の勉強会およびSR作業が行われ、各CQの作業が終了した。作業中のサポートは、SR経験者のサポーター、および、SR事務局が行い、SRチームからの各種質問への対応を行った。2023.4月に実施予定のSR報告会に向けて、資料作成を行う。

D. 考察

SR学習環境が不十分であった中で、リウマチ膠原病領域の難病班、学会といった学術団体にて系統だったSR教育を提供できたことは意義が高いと考える。また、実際のCQを利用しOJTを意識した勉強会の実施、チームとしての教育による組織を横断した人材の交流形成が、SRに対する自信や意欲を高める可能性があった。

E. 結論

ガイドラインの実際のCQを用いてSR勉強会を実施した。今後も継続的な勉強環境の提供を図ることが重要である。

班員外協力者：コクランジャパン 渡辺 範雄先生・辻本康先生

F. 健康危険情報

・特になし

G. 研究発表

12. 論文発表

・特になし

13. 学会発表

・特になし

H. 知的財産権の出願・登録

・特になし